

ワークショップ方式での浜尾遊水地整備計画策定



研究第一部 主任研究員 竹内 秀二

浜尾遊水地は、「阿武隈川平成の大改修」の一環として、福島県須賀川市内の阿武隈川と釈迦堂川の合流点付近に計画された遊水地です。福島市、郡山市、須賀川市等福島県中心部を流れる阿武隈川は、平成10年8月末洪水により、甚大な浸水被害に見舞われました。この原因の一つは、完成堤防が必要延長の1/3しかなく、無堤地区が全体の約30%も残っているなど、河川整備率が著しく低いことがあり、このため、大改修により浜尾遊水地の他、築堤、河道掘削、護岸強化などが実施されることとなったのです。

浜尾遊水地の整備にあたっては平成12年度から13年度に掛けて浜尾遊水地利用計画検討委員会において遊水地利用計画の基本的な方向について検討がなされ、その結果「浜尾遊水地利用計画書」がとりまとめられました。当該計画では「豊かな自然を活かし人と地域を育てる浜尾遊水地」を基本コンセプトとして、利用や保全などの基本的な7つのゾーニングが定められています。今回のワークショップは7つのゾーニングのうち、平成15年度の遊水地完成に併せて基盤整備を行う「保全ゾーン」と「水辺の回廊ゾーン」を対象に具体的な整備計画の案を作成するため開催されたものです。

浜尾遊水地利用ワークショップの参加者一般公募は、地元須賀川市全戸へのチラシ回覧と福島河川国道事務所HPを通じて行い、その結果21名の応募がありワークショップには、応募者全員に（うち須賀川市内から15名）に参加していただくこととなりました。この他に、

- ・コーディネーター：福島大学経済学部星野教授
- ・アドバイザー：阿武隈川河川水辺の国勢調査アドバイザー、教育関係者
- ・オブザーバー：須賀川市
- ・事務局：福島河川国道事務所

という構成で、平成15年2月～8月で計6回開催されました。各回のワークショップの概要は下記のとおりです。

○第1回・参加者の抱負、遊水地の概要把握

20代～70代の幅広い年齢層の様々な立場の参加者が「浜尾遊水地に期待すること」というテーマで意見交換を実施

○第2回・現地見学、環境の現況把握

現場状況を把握するために、旧河道部（保全ゾーン）や水路部（水辺の回廊ゾーン）を視察し、その後、3グループに分かれ遊水地の目指すべき方向につい

て討論し、各グループ毎に発表

○第3回・整備テーマと基本方針の検討

保全ゾーンと水辺の回廊ゾーンの基本方針について討議、また、討議の中で先進地事例を学びたいとの提案があり、5月に埼玉県荒川に行き、北本自然観察公園、荒川ビオトープ、三ツ又沼ビオトープを見学

○第4回・整備案の検討

先進地視察参加者から感想や意見の報告を行うとともに、前回の議論も踏まえ、整備テーマとして「自然との共生」「自然への回帰を目指す」を決定し、保全ゾーンでは、「現状湿地を残す、区域の拡大については時間を掛けて検討する」を、水辺の回廊ゾーンでは、「安心して自然を学べる場所にする、水路を蛇行させ変化をもたせる」を基本方針として決定した。また、これらを実現するための具体案をグループごとに討議し、水が枯れない工夫が必要、水質の改善が必要、洪水後の状況を踏まえた整備が必要など意見が挙げられた。

○第5回・行動計画、利活用、維持管理案の検討

整備計画の具体案を検討するとともに今後の行動計画を説明。この際、管理や利活用にあたっての課題として、安全に利用できる水質の確保、一年を通じて水量の確保、市民の認知度の向上、遊水地と周辺の生態系にも配慮する等の課題が挙げられ、また、今後は遊水地の利活用や維持には市民の自主的な活動も不可欠であり、市民や行政などが連携して担うべき役割を果たしていく必要があるなどの意見が出された。

○第6回・まとめ

前回のワークショップで出された課題に対する対応方針の説明とこれまでの検討成果のまとめを行った。特に整備後もモニタリングを行いつつ、必要に応じて課題への対応を行うとともに市民、行政、河川管理者の連携を今後とも一層緊密にしていくことを確認した。

平成15年12月7日には、このワークショップへの参加者が中心となって、先進地視察で訪問した埼玉県からの講師も招いて、130人あまりが参加した「浜尾遊水地の自然を考える」フォーラムが開催されたと聞いています。今回のワークショップを契機にみんなの気持ちが集まって、意識したり行動したりしながら、より良い浜尾遊水地を目指して向かっている動きができたことは、今回のワークショップの大きな成果と考えています。

（このワークショップの詳細は福島河川国道事務所のホームページで見ることが出来ます）